資料－3②

東日本大震災からの復旧・復興
～ 現状 と 課題 ～

令和５年５月２８日
宮城県 土木部

復旧・復興事業の進捗状況

宮城県

- 東日本大震災において被災した公共土木施設の災害復旧事業や、「災害に強いまちづくり宮城モデル」を推進するための津波対策、復興まちづくり事業については、令和4年度までに99%が完成。

◆ **災害復旧事業**

県事業　2,295箇所完成　**（残り 1箇所）**

市町村事業　4,452箇所完成　**（残り 3箇所）**

◆ **復興まちづくり事業　全地区完成**

防災集団移転促進事業　195地区

土地区画整理事業　35地区

津波復興拠点整備事業　12地区

現下の課題等に対する対応方針

宮城県

1　東日本大震災復旧箇所の早期完成

- 県事業で１箇所、市町村事業で３箇所について、他事業との調整などにより復旧工事を継続中。

2　頻発化・激甚化する災害への備え

- 温暖化の影響による自然災害の頻発・激甚化を踏まえ、国土強靭化予算を最大限活用し、災害への備えに努めている。

５か年加速化対策により確実に効果が現れているが、引き続き対策を継続し、防災力の向上が必要。

3　東日本大震災の教訓の伝承・発信

- 震災から12年が経過し、震災を知らない年代が増加。
- 震災の教訓と，本県が取り組んできた復興まちづくりの成果を、新たな日本のモデルとして全国に向けて伝承・発信することが，温かいご支援をくださった全国の皆様への恩返しになる。

4　新型コロナウイルス感染症により停滞した経済活動及び交流人口の拡大

- 復興事業が完了した市街地や観光施設への人流を回復させ、落ち込んだ被災地の経済活動を活性化させる必要がある。

震災伝承の取り組み

宮城県

3.11伝承・減災プロジェクト

県全体として「自らの命を守る行動が実行できる社会」を目指した取り組みを進めており、土木部では避難の重要性を伝えていくことに重点をおいた「3.11伝承・減災プロジェクト」を進めている。

○ みやぎ減災県土アーカイブ

➢ 震災の記憶の風化を防ぐとともに、防災・減災対策や防災教育等に関する効果的な利活用を図るため、震災関連資料を収集、デジタル化して公開しています。

○ 出前講座・パネル展

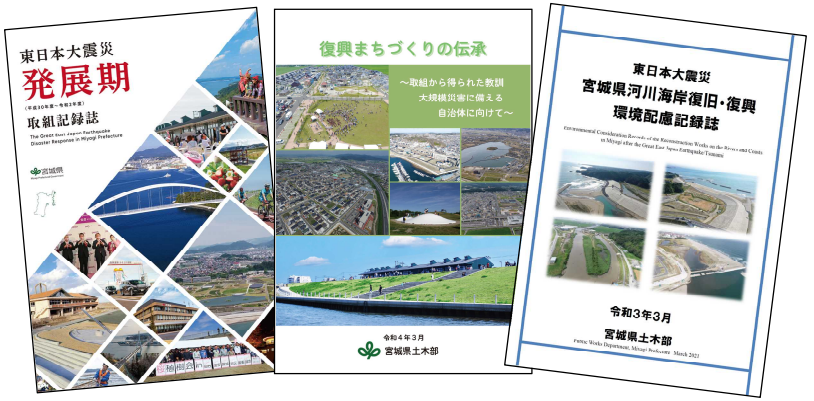
➢ 職員派遣などのご支援をいただいた各県に対して、震災復興パネル展や出前講座を開催しています。

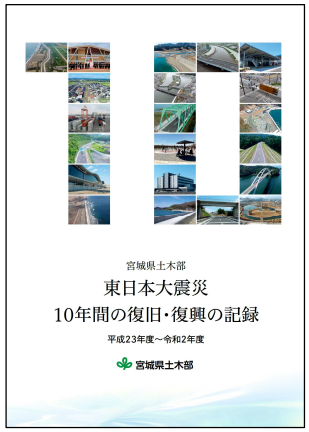
R5.1月～3月にかけて熊本・鹿児島・高知・宮崎・徳島で開催

震災記録誌等の発行・公開

- 東日本大震災 復旧期／再生期／発展期の取組記録誌、取組記録映像（英語版あり）
- 復興まちづくりの伝承　～取組から得られた教訓　大規模災害に備える自治体に向けて～
- 宮城県河川海岸復旧・復興環境配慮記録誌
- 東日本大震災10年目の記録（みやぎの住宅・社会資本 再生・復興の歩み）

etc・・・





復興インフラを活用した観光振興

宮城県

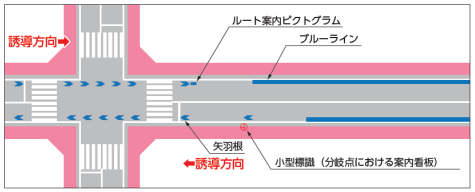
道の駅「大谷海岸」（気仙沼市）

- 美しい砂浜を保全するために防潮堤を陸側にセットバック。
- T.P+9.8mの防潮堤法面全面に緩傾斜の階段構造を採用。
- 国道45号と背後地を一体的にかさ上げし、道の駅「大谷海岸」をリニューアルオープン。

サイクルツーリズム
震災復興・伝承みやぎルート

- 南端の「山元町」から北端「気仙沼市」までの沿岸地域における漁業・海産物等の魅力を活かしつつ、東日本大震災の遺構や伝承施設等を巡るサイクリングルートを設定。
- 走行空間の明示やルート案内のための路面表示、ルート案内等の看板等を整備。

整備イメージ



アフターコロナにおいて、インフラツーリズム等による一層の交流人口拡大に向けた情報発信や観光施策との連携を図る